

「近代測量150年」とは

2019年は、明治政府に近代測量を行う機関が設置された明治2年(1869年)から満150年に当たります。

国土交通省国土地理院では、「近代測量150年」の節目に、これまでの歩みと発展を明らかにするとともに、測量・地図作成の役割や重要性について理解を深めていただくため、全国の「道の駅」においてパネル展を開催しています。

明治

1909年(明治42年)



明治期、経緯儀などを使い、三角測量と呼ばれる方法で測量をしていました。

大正

1916年(大正5年)



大正時代に建てられた測量用やぐらです。約45Km離れた地点を観測します。

昭和

1983年(昭和58年)

東京駅



昭和35年に「くにかぜ」による空からの測量が開始されました。

平成

地理院地図



そして新しい時代へ

宇宙測地技術を利用した測量や、ドローンの活用など、測量技術は日々進歩しています！